

大阪・忍ヶ丘駅前遺跡

大阪・忍ヶ丘駅前遺跡

発掘調査を実施した。この付近は、古墳時代を中心とする遺物の散布が認められていたが、調査の結果、古墳時代の遺構面は削平されており、鎌倉時代末から室町時代の遺構が検出された。遺構としては、柱穴、井戸跡および溝等があり、木簡は幅約5m、深さ1mの南北方向に流れる溝の最下層から出土した。

発掘調査を実施した。この付近は、古墳時代を中心とする遺物の散布が認められていたが、調査の結果、古墳時代の遺構面は削平されており、鎌倉時代末から室町時代の遺構が検出された。遺構としては、柱穴、井戸跡および溝等があり、木簡は幅約5m、深さ1mの南北方向に流れる溝の最下層から出土した。

所在地	大阪府四條畷市岡山
調査期間	一九七六年(昭51)二月～四月
発掘機関	四條畷市教育委員会・四條畷市文化財研究調査会

5	4
遺跡の種類	調査担当者
集落跡	野島

8 木簡の釈文・内容

7 6 遺跡の年代 古墳時代中期、鎌倉時代～室町時代  
遺跡及び木簡出土遺構の概要

A detailed black and white map of the Nagaoka-koji area, showing the railway line, station buildings, and surrounding terrain. The map includes labels for '駅前' (station forecourt), '高坂' (Takasaka), '井ノ口' (Iino), and '大谷' (Oya). A dotted line indicates the extent of the archaeological site.

怨霊を退散せしめるための呪符であると考えられる。中央部に径〇・三cmの穿孔が表からなされており、釘で打たれた可能性が強い

怨靈を退散せしめるための呪符であると考えられる。中央部に径〇・三cmの穿孔が表からなされており、釘で打たれた可能性が強い

四條畷市教育委員会『忍ヶ丘駅前遺跡発掘調査概要・II』（一九八三年）

一九七六年に枚方信用金庫忍ヶ丘支店建設が計画さ



(大阪東北部)